

平成23年度 部誌・OB&OG 会報

— 現役と OB&OG の情報誌（架け橋） —



SHORINJIKEMPO

少林寺拳法

防衛大学校少林寺拳法部

No. 3 8

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目次

	頁
部誌	
1 部長挨拶	2
2 監督挨拶	3
3 学生寄稿	4
4 平成23年度活動成果	10
5 平成23年度大会成績	13
6 平成24年度部員名簿	15
7 平成24年度年間活動計画	19
8 平成24年度顧問団	22

奥平会報

1 会長挨拶	24
2 平成23年度奥平会活動成果報告	25
3 平成23年度奥平会総会議事録	26
4 平成23年度奥平会決算報告書	27
5 平成24年度奥平会活動計画	28
6 平成24年度奥平会予算計画	30
7 期別連絡網	31
8 連絡事項	32
9 少林寺拳法部自衛隊支部紹介	35
10 奥平会名誉会員名簿	38
11 奥平会員名簿	39

編集後記

部長挨拶

部長 高橋 信明

合掌

近年ますます増加傾向にあります各種自然災害への派遣や海外での PKO 活動等があり、自衛隊は本来任務以外にも多くの使命を遂行するよう期待され、また遂行して来ています。国情からすれば止むを得ないことなのかも知れませんが、このような状況の下自衛隊は以前にも増して人的にも物資的にも厳しい状態にあります。防衛大学校少林寺拳法部 OB・OG 諸兄姉におかれましては、困難をものともせずご活躍のことと思います。また現役学生諸君は新年度に入り、新入生部員を迎え、新たな気持ちで稽古に励んでいることと思います。

昨年は拳士諸君が積年の悔しさを晴らすべく張り切ってくれたお陰で、良い成績を収めることができました。震災の影響により昨年 9 月下旬に開催されました関東学生大会におきましては団体演武 2 位（合計点では 1 位と同点、規定で 2 位となる。）、三人掛けで 5 位となり、11 月初旬に行われました全日本学生大会では団体演武 1 位、単独演武有段で 3 位、男子段外で 4 位となりました。好成績の結果、学校長や幹事からもお褒めの言葉を頂きましたが、昨年はさらに、国際大会や全国大会で顕著な成績を収め市のスポーツ活動の発展に寄与したとのことで、横須賀市よりスポーツ栄光章が授与されました。防大少林寺拳法部は以前から地元で高く評価されていましたが、改めて地元の章を受章することができ、防衛大学校としても、受章した拳士諸君としても喜びであり、同時にこれからの励みにもなったことと思います。

24 年 5 月での部員は 4 年（57 期、12 名）、3 年（58 期、12 名）、2 年（59 期、15 名）に加えまして、新入部員（60 期）が 25 名おりますので、総員 64 名で賑やかな雰囲気に戻って来ております。現在、神田、頼富両先生のご指導の下、57 期政権（主将：盛満、副将：重松）を中心としまして、日々稽古に励んでおりますので、OB・OG 諸兄姉におかれましては、変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結手

監督挨拶

監督 寺田 浩昌(#51)

合掌

防衛大学校少林寺拳法部監督の寺田と申します。

OB各位におかれましては、日頃から技術指導をはじめ各種のご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、我が部の状況は、最上級生となった第57期生を核心として、日夜練習により技を磨くとともに、少林寺拳法の目的である「人づくり」を重視して人格の陶冶に努めております。今年度は、OB各位のご協力と第4学年以下の情熱に満ちた勧誘活動の成果により、新入生26名を獲得することができました。また、平成24年5月4日(金)に実施された第49回関東学生大会に参加し、男子茶帯の部において第1位を獲得する等一定の成果をおさめることができました。一方、第4学年が出場した組演武及び三人掛け、第3学年を主力として臨んだ団体演武においては物足りない成果となりました。ここ数年は各学年二桁の部員数を確保し、そして今年度の第60期新入部員多数獲得により、40期代の部員減少に歯止めがかかり、防衛大学校内の校友会のうちでも比較的多い人数を確保することができていますが、直接指導にあたるOBたる顧問となる研究科学生や指導教官がちょうど部員減少期に相当することから、指導部が手薄となる事態に直面しているのが実情です。第3・4学年の主要大会における成績は全盛期に比して伸び悩みがちであることから、上級生に対する技術指導がやや不十分であるといえます。OB諸先輩方におかれましては、この状況をご理解いただき、引き続き我が部に対するご指導・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

結手



「防衛大学校少林寺拳法部」

56期主将 佐藤 康平

合掌

こんにちは。56期主将の佐藤康平です。私たち56期も残すところ卒業のみとなりました。思い起こせば、約4年前15人で始まった56期少林寺拳法部は共に汗を流し、互いに切磋琢磨しあいここまでやってきました。辛いこともキツイことも皆で乗り切り、その充実感は何事にも代えがたいものでした。部の成績としましては、関東学生大会では悔しくも、満足のいく結果は残せなかったものの、その反省と、それを踏まえた努力、団結の結果、全日本学生大会では、我が部、最大の悲願である日本一をとることができました。

この部を終えて、今思うことは、この部活の持つ家族のような「温かさ」です。厳しい中にも、優しさがあり、優しさの中にも厳しさがありました。先輩、後輩、分け隔てなくともに汗を流し、真剣にぶつかりあう姿は、思えば、ここにしかない青春であり、ここにしかない「繋がり」でした。ここで、築き、結んだ関係は、何よりも強く、尊く、私たちの中に輝き続けるでしょう。私たちが、この小原の地を思うとき、そこには、この部に所属したものならば、誰もが想う「灯台」があるのです。それこそが誰ひとり欠けてはいけません。全員が揃ってこそ光り輝く「防衛大学校 少林寺拳法部」なのです。

これらを踏まえて今年は「全員で」を指針に掲げ、56期政権だけでなく、部全体が団結した結果、大きく飛躍できた年になったと実感しています。56期政権として有終の美を飾り、我が部にささやかながら貢献できたことは、我々の何よりの喜びであり、誇りです。この部に所属できて本当に良かった。心からそう思います。

最後になりますが、高橋部長をはじめとする顧問の方々、これからも防衛大学校少林寺拳法部をよろしくお願ひします。

結手



「少林寺拳法で得たもの」

56期副将 北村 修

合掌

「団体演武の部 第3位 防衛大学校」。第44回 全日本学生大会でこのアナウンスが日本武道館に響き渡ったその日から私たち56期のみんなとの政権が始まりました。思い起こすと私は当時53期主将の磯畑さんに少林寺拳法部へ勧誘され入部しました。56期のみんなと出会わせてくれた、あの時の主将の勧誘に感謝しています。今では59期が日々、一生懸命に練習に取り組む姿を見ると、何も分からずただ政権に言われるままにみんなで練習に取り組んでいた3年前のことをつい、この間のことのように感じます。

平成23年度は東日本大震災などの影響で日本は激動の1年間でした。そしてこの年は私たちにとっても激動の一年となりました。関東大会延期を始めとし、さらに全日本学生大会の1カ月前に関東大会が開催されるという例年のない日程に私たちは戸惑いの連続でした。そんな中で頼りになったのは56期のみんなでした。私は3年係補佐という3学年の団体演武を優勝させるという重要な役職に就かせてもらいました。言われたことを一生懸命に取り組めば良かった3学年までとは違い政権になってからは、人にわかりやすく伝えることの難しさや人に教えながらも自分の練習をすることの大変さなどを知りました。56期のみんなには、どうすれば57期以下に技術を上手く伝えることができるか、またなかなか上達しない私の技術を高めるためにはどうすればいいかなど助けてもらいました。時には練習時間以外の時間を使って、動きを見てもらい様々なアドバイスをもらったりすることもありました。そして来たる11月6日、防大少林寺拳法部一丸となって臨んだ第45回全日本学生大会では「団体演武の部 第1位 防衛大学校」のアナウンスが日本武道館に流れたときには本当にうれしかったです。

私は少林寺拳法を通じて本当に色んなものを得ることができました。今まで一度も武道をやったことのなかった私が武道というものに触れることができたことや自分自身に対する自信を身につけることができたこと、先生方・先輩方・57期・58期・59期という後輩たちなど様々な人と出会えたこと、そして56期のみんなと出会えたことです。私たち人間は一人で生活していくことはできません。そのことを少林寺拳法を学んでいく中で改めて感じました。これから私は色んなことを与えてくれた少林寺拳法に恩返しができるよう日々、頑張っていきたいと思います。

最後に部長、先生、監督、顧問、OB、OGの方々、色々とお迷惑をおかけするつもりでしたが、4年間本当にありがとうございました。

結手



「碧血」

57期主将 盛満 昭彦

合掌

政権交代からもう半年近く経ちました。この半年間、振り返ってみると防大少林寺拳法部のことを考えなかった日が無かったように思えます。「この技はどうすれば上手くなるのだろう」、「どう教えれば理解してくれるのだろう」といった指導のことや、部の運営についてなど、今まで微かにしか考えていなかったことが多く、57期全員で日々研究しております。

さて、57期の方針は「碧血」としました。「碧血」とは、中国の古典からきており“真心と高い志をもった青年の生きる様”を表す言葉です。私たち57期は人の成長に必要なものは、愛のある指導・教育、上手になりたい・勝ちたいという向上心だと考えます。真心＝愛情、高い志＝向上心。この二つを持ち日々成長しようと生きる様、まさに防大少林寺拳法部が目指す「人格も技も力も、全てにおいて日本一」になるに必要なものだと思います。前政権であった56期は方針を「全員で」とし、練習も行事も全員が一致団結し行なった結果、全日本学生大会では団体演武第1位を筆頭に、単独演武第3位など成績も部としても大きく飛躍したものとなりました。そこで私たち57期は56期が作ってくださった土台を強化し、さらに飛躍していけるよう4学年だけでなく1～4学年全員が部のことを考え自分自身のことを考え常に上を目指し精進していきます。

今年度の特徴として6月に神奈川県大会が行なわれることが挙げられます。神奈川県大会は毎年7月に行われていたため学生は夏季定期訓練で参加することができませんでした。しかし、今年は6月ということで参加することができ、更にそこで上位入賞すると12月に行われる全国大会に出場することが出来ます。全国大会では大学生だけでなく小学生から一般の方まで幅広く参加するので、学生大会という殻にこもりがちな防大少林寺拳法部にとって変化する良い機会であると考えています。

最後に、私たち57期では部長、先生、監督、顧問の方々、OB及びOGの方々にご迷惑を多くおかけすると思いますが57期一丸となり、部員全員が常に志高く日々精進していきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

結手



千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって練とす

57期副将 重松 翼

合掌

57期政権のもとで、防大少林寺拳法部を運営することとなり早くも半年が経ちます。少林寺拳法という武道の存在すら知らなかった私に54期の先輩方が懇切丁寧に基本から教えて下さった日々が昨日のことに思い返されます。そんな私も今では政権となり、新入部員となる60期生も迎え、後輩の育成と部の繁栄のために日々精進しております。

副将兼3年係正を務め、主に団体演武を中心に教えていますが、政権交代して間もないころは日々ミーティングを行い、如何に成長させるか考え練習に反映させるものの手ごたえを感じる事が出来ず、教えることの難しさを感じる毎日でした。しかし、最近では、少なからず58期の成長する姿を見て喜びを感じ、やりがいを感じています。

しかし、先日開催された関東学生大会では、団体演武6位という結果に終わってしまい3年係正を務める者として、責任を感じずにはられません。何事も結果が全てではなく課程が大事と言われるますが、結果が出なければ努力が報われたとは言い難いものです。昨年全日本学生大会で1位を獲っているため、57期政権には58期に1位を獲らせてやる義務と責任があると思っております。今大会の反省を生かし、必ずや全日本では良い結果が残せるように一層努力します。

さて、武道とはよく日々の修練の積み重ねと言われます。題名にした「千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって練とす」とは、宮本武蔵『五輪書』にあり、「鍛練」の語源となった言葉です。「鍛」とは基礎が定着すること、「練」とは一つの道として揺るぎなく完成することであり、継続的な努力・精進の大切さを説いた言葉であります。まさに、少林寺拳法にも通じるものであり、限られた時間の中で基礎基本を怠ることなく日々練習に励むことが重要だと感じます。

近年、学生大会において、見た目を重視し、速さ・きれを念頭に練習したような演武が多く、度々審査員の方々から指摘されます。そんな中、我が防大少林寺拳法部は、技の本質・基本を追及し、それでなお結果を出さなければならないと確信しております。団体演武はもちろん、自分自身も政権として背中でも語れるように寸暇を惜しんで練習に励み、日本武道館において、また防衛大学校の披露演武が出来る日まで政権一丸となって修練します。

最後になりましたが、これからも全力で部の運営、修練に励んでいく所存でありますので、部長、先生、監督、顧問、OB、OGの方々、今後ともますますのご指導、ご鞭撻のほどをよろしく申し上げます。

結手

防大少林寺拳法部に入部して

58期 森下 紀洋

合掌

私が防大少林寺拳法部に入部した理由は、大学に入ったら何か新しく武道をやろうと考えていたからです。数ある武道の中で少林寺拳法は初心者の敷居も低く、演武も派手で迫力があり、とても関心がありました。また少林寺拳法部は土日の休みも多く、長期休暇も帰りやすいとのことだったので私は少林寺拳法部に入部しました。

半ば不純な動悸で入部した私ですが少林寺拳法部で二年間を過ごし色々と考えたことがあります。特に強く思うのが「信頼できる同期」を得たことです。この二年間、私達は様々な困難に直面しましたが、その度に同期はたくさん私のことを助けてくれました。上辺だけの長い付き合いで本当に信頼できる仲間を持つことはとても難しいです。同じ苦難を共に乗り越えてこそ真の信頼関係ができます。

少林寺拳法部に入部して多くのものを得ましたし、それと引き換えに様々な苦痛や時間を代償としました。それでも私がこの選択を後悔しないのは代償を補って余るものを得ることができたからだと思います。

結手

少林寺拳法に入部して

58期 西山 貴幸

合掌

私が防大少林寺拳法部に入ったきっかけは、もともと防大に入ったら武道系の部活に入ろうと思っていたのと、前期の副部屋長が少林寺拳法部であったからです。周りからはきついから止めておけと言われてましたが、その反対を押し切り入部しました。いざ入部してみると、なるほどかなりきついものでした。まずアップのランニングがほぼダッシュじゃないかというほどのスピードで、体力には自信がありましたが付いていくのに精一杯でした。大会前になるとアップのランニングは軽くなるのですが、その分普段の練習のレベルが上がります。きついですが、しかし練習を重ねるうちに自分のレベルが向上していくのが自覚できますし、なにより先輩方が丁寧に教えてくださるので、練習してて楽しいです。今は次の大会に向けて精一杯頑張っ、最優秀賞を獲得したいです。

結手

防大少林寺拳法で得たもの

59期 井口 賢

合掌

小学校4年生で親の勧めに従い少林寺拳法を始めた私は、続けているうちに少林寺拳法が好きになり、防衛大学校へ来ると決めた時、同時に少林寺拳法部へ入部することも心に決めました。道院では年の離れた相手と練習することが多く、同年代の相手とはあまり組めなかったことも、入部を望む気持ちを後押ししました。防衛大学校に入り、予定通り少林寺拳法に入部しましたが、ここでの練習はそれまでに行っていたものと比べ、体力的にも、精神的にも辛いものでしたが、同期とともに汗を流すことの充実感には予想を超えるものがありました。同期と一緒に練習することにより、辛い中でも一年間楽しんで過ごすことができました。これからも互いに切磋琢磨し、練度の向上を図っていきたいと思います。

結手

9年間少林寺拳法を続けて

59期 平江 泰己

合掌

私は小学校1年生のときから少林寺拳法を習い始めていました。その後、中学校で一度やめた後、高校に入って部活として再び始めました。今現在は防衛大学校で続けています。

防大では9年間なんとなく続けていた少林寺拳法とは違い「優勝する」という大きな目標を持つようになりました。今では毎日が筋肉痛でアザがあるのは当たり前ですがその分だけ自分が熱中できるものがあるとうれしく思います。

今は5月にある関東地区大会に向けての練習シーズン中で、私も組演武の出場枠をつかむためにがんばって練習しています。

十年目になる今年こそは目標を達成できるように練習をがんばります。

結手

平成23年度活動成果

日 時	行 事	場 所	成 績
5月16日	新入生歓迎行事	ソレイユの丘	
6月4日	早慶防合同練習	防衛大学校	
6月26日	昇段審査	関東学院高校	
8月10日～13日	本山合宿	香川県多度津町	
8月19日～21日	夏合宿	防衛大学校	
9月25日	第48回関東学生大会	慶応大学日吉	団体演武:2位 三人掛:5位
10月16日	少林寺拳法神奈川 オープン大会	横浜アリーナ	披露演武
11月15日	第45回全日本学生大会	日本武道館	団体演武:1位 単独有段:3位 段外組演武:4位
12月6日	第59回開校祭(演武披露)	防衛大学校	
11月15日	政権交代	防衛大学校	
11月20日	三浦ブロック合同練習会 埼玉県理工系大会	芝浦工業大学大 宮キャンパス	男子初段:1位 男子段外:1位
2月2日	全自衛隊大会	航空自衛隊幹部 候補生学校	初二段 : 最優秀 男子有段単独:優良
3月23日～25日	春合宿	防衛大学校	
12月4日	三浦ブロック大会	神奈川県立保健 福祉大学	有段 : 2位 段外 : 1位、2位
1月5日～7日	寒稽古	防衛大学校	
2月4日	奥平杯、OB総会、納会	防衛大学校	
2月5日	横須賀三浦ブロック 新春の集い	セントラル ホテル	
2月11日	横須賀市スポーツ栄光章 受章式	横須賀ベイサイ ドポケット	
3月18日	56期卒業	防衛大学校	
3月19日～21日	春合宿	防衛大学校	

関東大会、全日本学生大会、全自衛隊大会の詳細は次頁参照。



【 奥平杯における現役・顧問団と奥平会員の面々 平成24年2月4日 】



【 納会における現役・顧問団と奥平会員の面々 平成24年2月4日 】



【 横須賀市スポーツ栄光章受賞 平成 24 年 2 月 11 日 メルキュールホテル 】



【 校友会奨励賞受賞 平成 24 年 3 月 】

平成23年度大会成績

関東大会（平成23年9月25日：慶應義塾大学体育館）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	2位	57期 盛満昭彦、笠慎之介、重松翼、 藤本宗一郎、有村匡紀、朝鶴悠太、 則内龍太郎 58期 仲矢光希
三人掛の部	5位	56期 佐藤康平、北村修、鈴木大翔
男子二段の部	予選7位	56期 岸上吉孝、59期 井口賢
男子初段の部	予選7位 予選5位	58期 樋口敏彦、西山貴幸 58期 古市英人、前田陽成

全日本学生大会（平成23年11月6日：日本武道館）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	1位	56期 佐藤康平 57期 盛満昭彦、笠慎之介、重松翼、 藤本宗一郎、有村匡紀、則内龍太郎 58期 仲矢光希
単独有段の部	3位	56期 ドン
段外の部	4位	58期 戸本宗一郎、森拓海
二段の部	7位	56期 上野嘉優、北村修
三段以上の部	9位	56期 佐藤康平 57期 盛満昭彦
三人掛けの部	11位	56期 鈴木大翔、岸上吉孝、南里
初段の部	予選4位	58期 古市英人、西山貴幸
男女初段の部	予選9位	58期 宇野祐喜 59期 中山真利奈

埼玉県理工系大会（平成23年11月20日：芝浦工業大学大宮キャンパス）

種目	成績	出場拳士
男子初段の部	1位	58期 西山貴幸、古市英人
	5位	58期 宮城充宏、森下真史
男女初段の部	11位	58期 宇野祐喜
		59期 中山真利奈
男子段外の部	1位	59期 戸本宗一郎、森拓海
	4位	59期 宮里進斗、小林岳海
	11位	59期 川口剛史、山田竜矢
男子二段の部	4位	59期 平江泰己、井口賢

横須賀三浦ブロック大会（平成23年12月12日：県立大学）

種目	成績	出場拳士
一般有段の部	2位	57期 笠慎之介、遠藤真琴
一般段外の部	1位	58期 浅井亮、小椎尾憲造
	2位	58期 菊井健太、山田正嗣

平成24年度部員名簿

(平成24年5月1日現在)

期 別	役 職	フリガナ 氏 名	小 隊	要 員	専 攻
57	主 将	モリミツ アキヒコ 盛満 昭彦	141	空	航空
	副 将 3年正	シゲマツ ツバサ 重松 翼	411	陸	通信
	統制長 1年正	リュウ シンノスケ 笠 慎之介	131	空	航空
	道場長 2年補佐	アリムラ マサキ 有村 匡 城	111	陸	航空
	主務 3年副	フジモト ソウイチロウ 藤本 宗一郎	442	海	電気
	安全 3年補佐	ゴトウ カズマサ 後藤 和正	411	陸	通信
	2年正	スノウチ リュウタロウ 則内 龍太郎	331	空	機械
	庶務 2年副	アサウ ヌウタ 朝鶴 悠太	441	陸	電気
	会計 2年補佐	マツザキ リョウイチ 松崎 諒一	411	空	人間
	本山 1年副	タナカ ショウタ 田中 翔太	423	陸	機械
	庶務 1年補佐	タケムラ シゲト 竹村 滋 人	212	陸	応物
	HP 1年補佐	エンドウ マコト 遠藤 真琴 W	141	海	機シス
58		ヒグチ トシヒコ 樋口 敏彦	131	海	応化
		クリバヤシ マサキ 栗林 正樹	231	陸	人間
		マエダ ヨウセイ 前田 陽成	232	空	電気

	ナカヤ 仲矢	コウキ 光希	242	海	通信
	ナグモ 南雲	ユウキ 祐樹	231	陸	電気
	ナカノ 中野	カツキ 勝喜	222	陸	電気
	ウノ 宇野	ユウキ 裕喜	331	陸	公共
	ニシヤマ 西山	タカユキ 貴幸	441	空	機械
	カタオカ 片岡	トシノリ 俊理	442	陸	情報
	フルイチ 古市	ヒデト 英人	432	空	情報
	モリシタ 森下	ノリヒロ 紀洋	421	海	情報
	ミヤギ 宮城	ミツヒロ 充宏	442	陸	建設
59	ナカヤマ 中山	マナ 真利奈	111	海	情報
	ヒラエ 平江	タイキ 泰己	121	陸	情報
	ヤマグチ 山口	ヒロシ 滉司	141	空	情報
	ヤマダ 山田	マサツグ 正嗣	142	海	情報
	トモト 戸本	ソウイチロウ 宗一郎	211	陸	機工
	キクイ 菊井	ケンタ 健太	212	海	航空
	カワグチ 川口	サツシ 剛史	242	海	航空
	アサイ 浅井	アキラ 晃	311	空	通信

	ヤマダ 山田 聡也	311	陸	通信
	ブン ティリナ	312	陸	通信
	シノ 森 拓海	332	陸	機材
	イグチ 井口 賢	342	陸	人間
	ミヤザキ 宮里 進斗	412	海	公共
	コバヤシ 小林 岳海	421	陸	地球
	コノエ 小椎尾 憲造	421	陸	公共
	ユキ 結城 翔伍	422	陸	地球
60	ハンモト 橋本 大季	113	共通	理工
	オカモト 岡本 直也	113	共通	理工
	イノザキ 磯崎 雄哉	113	共通	理工
	ヨコタ 横田 健太郎	133	共通	理工
	キタムラ 北村 友一	133	共通	理工
	タチバナ 立花 祐太	143	共通	理工
	イワノ 岩井 雄馬	143	共通	理工
	ヤマモト 山本 賢一郎	143	共通	理工
	ハルキ 春木 悠輔	143	共通	理工
	ヤマダ 山田 和輝	143	共通	理工

	ナカジマ 中島	リツヤ 律也	213	共通	人文
	アライ 新井	ソウマ 総馬	233	共通	理工
	フジシロ 藤代	ツカサ 司	233	共通	理工
	ヤバナ 矢花	ジュンイチ 純一	243	共通	理工
	ナカムラ 中村	チハル 千春	323	共通	人文
	キラ 吉良	ケンジロウ 建次郎	333	共通	理工
	コイケ 小池	ツヨシ 毅	333	共通	理工
	クリタ 栗田	タツル 樹	333	共通	理工
	ナカヤマ 中山	コウイチロウ 孔一郎	333	共通	理工
	マツモト 松本	コウヘイ 光平	423	共通	理工
	ヒガシハラ 東原	カズキ 和毅	433	共通	人文
	タケダ 武田	カズキ 一樹	433	共通	人文
	カナザワ 金沢	カツノリ 克則	433	共通	人文
	ヤマシタ 山下	アイン 亜院	433	共通	人文
	スガマ 須釜	カズキ 一樹	443	共通	理工
	ヤベ 矢部	ヒロキ 宏樹	443	共通	理工

平成24年度年間活動計画（一部実績含む）

期 間	行 事	場 所	備 考
4月中	全力勧誘期間		
5月4日	関東学生大会	日本武道館	
5月12日	新入部員歓迎行事	海の公園	新入部員 26名入部
5月19日	早稲田大学・慶應義塾 大学との合同練習（早 慶防）	防衛大学校	
6月10日	横須賀ブロック大会 杉本記念合同練習会	県立大学 法政大学	
6月17日	昇段審査	関東学院	
6月24日	神奈川県大会	横浜文化体育館	
8月1～3日	夏合宿	防衛大学校	
8月28～9月1 日	本山合宿	香川県多度津町	3学年参加
11月4日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武、2 段以上、3人掛最優 秀
11月10～11日	第60回開校記念祭 （演武披露）	防衛大学校	
12月2日	全国大会	横浜国際プール	
時期未定	全自衛隊大会	未定	
時期未定	政権交代	防衛大学校	
1月中	寒稽古	防衛大学校	
1月～2月上旬	奥平杯・OB総会・納 会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

*なお、各月一回を基準に神田・頼富先生の「先生日」（旧：師範日）を予定



【 菅野前部長（元副校長）をお迎えしての部旗披露式 平成 24 年 4 月 28 日 】



【 少林寺拳法部員を前にしての菅野前部長のお話 平成 24 年 4 月 28 日 】



【 第 49 回少林寺拳法関東学生大会 平成 24 年 5 月 4 日 】



【 新入生歓迎会 於 金沢八景 平成 24 年 5 月 12 日 】

平成24年度顧問団

部長 教授 高橋信明

先生 (旧師範) 神田先生 (正範士7段) 頼富先生 (准範士6段)

監督 2陸尉 寺田 浩昌

顧問団 教授 宇都宮 俊男 加藤 三千夫 准教授 濱田 秀 (2陸佐) 有賀 敦 西田 謙

講師 齋藤 文一 助教 和田 篤 事務 伊藤 春代 渡辺 康子

3海佐 津森 聡 1海尉 房野賢一 2陸尉 脇田裕一郎 宅島 宏幸



【平成24年度顧問団の面々】

(敬称等略) 前列左から：島、伊藤、渡辺、高橋部長、宅島、加藤、宇都宮、津森、濱田前監督

後列左から：寺田監督、有賀、西田、齋藤、和田、房野

部外顧問 出口1空佐(#24空：元主将・全自支部長) 佐藤1空佐(#24空：元監督)

坂本1空佐(#25空：元監督)

相良2海佐(#26海：元監督)

米山2陸佐(#27陸：元監督)

吉武2陸佐(#31陸：元主将)

山口2空佐(#32空)

高取2海佐(#37海：元監督)



【出口先輩：目黒】



【佐藤先輩：横田】



【坂本先輩：横田】



【相良先輩：八戸】



【米山先輩：目黒】



【吉武先輩：横須賀】



【山口先輩：府中】



【高取先輩：横須賀】

※ 部外顧問の方には、防大近隣に来られた時にご指導をいただきます。

奧平會報

会長挨拶

奥平会会長 石渡 幹生

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年3月11日に発生しました東日本大震災と福島原子力発電所事故からの復旧は、思うほどの進展が未だ見られない状況の中にあります。あらためまして被災された方々など関係者皆様のご奮闘を願ってやみません。

昨年は震災により各種の大会が中止のやむなきにいたりしました。しかしながら本年は、少林寺拳法開祖生誕100年記念全国大会は12月に横浜国際プールにおいて開催される予定です。

さて、母校少林寺拳法部の活動につきましては、3年前の大会規約の変更等もあり、その影響もあったためか、ここ数年成績が今ひとつでありました。23年度は、この苦境を乗り越え、遂に全日本学生大会での団体演武最優秀賞を獲得することが出来ました。この栄光を称えて横須賀市からは横須賀市民スポーツ栄光章を、防衛大学校学術・教育振興会からは校友会活動奨励賞がそれぞれ部に授与されました。佐藤主将をはじめとする56期政権の頑張りとそれに従った後輩諸官を称えたいと思います。

24年度は57期盛満主将率いる57期生が、23年度の成果を更に拡大して行ってくれるものと期待しております。

一方、24年度のOB&OG会(奥平会)の活動につきましては、総会の承認のもと、例年並みの事業を計画・実施してまいります。本年度の特徴的なことは次のとおりです。

- ① 毎年、会員の皆様に配布しております「部誌・OB&OG会報」については、現在の発行部数が700部となり、今後も毎年15名前後の卒業者が見込まれることから、更に増加し続けることとなります。一方、本誌の作成に要するマンパワーも相当なものですが担当する要員(OB)が不足がちです。そこで、インターネットのホームページを利用することで経費の削減と負担軽減を図ることとしました。本年そのことを皆様にお知らせし、通信連絡体制の整備を図り、円滑な移行と運営となるよう務めていく所存ですので、ご理解、ご協力の程お願いいたします。
- ② 母校少林寺拳法部は平成26年度に創部50周年の節目を迎えます。他の大学も、ここ数年の間に50周年記念式典を開催しております。その2年前となった今年から準備態勢を整えていく必要があると認識しております。40周年記念式典とほぼ同様な形になるのではなかろうかと存じますが、皆様のご意見、ご協力を得ながら進めていきたいと思っております。

会員並びに御家族皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、御挨拶といたします。

結手

平成23年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に対し、金銭的支援及び防大所属会員等による人的支援を実施致しました。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣会員からの激励、金銭的な支援を実施致しました。
- (3) 所要に応じ、OBによる技術指導を実施致しました。
- (4) 予算に則り、顧問の必要経費の支援を致しました。

2 神奈川県連活動

- (1) 月例の会議に参加（濱田）
- (2) 開祖生誕100周年東日本災害復神奈川オープン大会（10月16日）への参加（濱田・寺田）

3 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（月1回；寺田・津森・房野・藤井・板東・脇田）
- (2) ブロック合同練習参加（濱田・寺田）
- (3) ブロック大会引率（12月3日）準備（12月4日）の実施（寺田・脇田）
- (4) 新年会（2月6日；寺田）等行事への参加
- (5) 横須賀市スポーツ栄光章授与式（2月11日）への参加（濱田）

4 学連・自衛隊連盟等行事への参加

- OB連合会（6月25日・11月23日）への参加（濱田・津森・佐藤）
※ 第38回全自衛隊大会は中止。

5 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議の開催（随時・転出入者があつたとき）
- (2) 政権・OB合同会議（1ヶ月に1回、必ず実施）
- (3) 職員少林寺拳法講習会の実施（週に1回基準；齋藤・和田顧問、現在2級）
- (4) ホームページの作成及び運営指導（行事等の機微に応じた広報活動を指導）

※ なお、会としてではありませんが、十条支部から20,000円の金銭的支援をいただいております、学生により有効に使用させて頂いております。

平成23年度奥平会総会議事録

- 1 平成23年度活動報告
頁20「平成23年度奥平会活動成果報告」のとおり報告し、質疑等なし。
- 2 平成23年度会計報告
頁24「平成23年度奥平会決算報告書」のとおり報告し、質疑等なし。
- 3 平成24年度奥平会活動計画
頁22「平成24年度奥平会活動計画」のとおり、承認された。
- 4 平成24年度奥平会予算計画
頁25「平成24年度奥平会予算計画」のとおり、承認された。
- 5 部誌の電子化
部誌の電子化について、本部より提案し、本年度から電子化することが了承された。

平成23年度奥平会決算報告書

平成23年度奥平会決算報告書（平成23年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	2,095,792
小計	2,095,792
55期OB会費	702,000
小計	702,000
総計	2,797,792

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	18,000
全日本学生大会	60,000
小計	128,000
学生支援金	
春合宿支援金	10,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	80,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	30,000
三浦ブロック関連	36,000
部誌発行関連	199,925
OB杯・慶弔事・雑事等	83,824
顧問支出援助(OB連合・記念行事・交)	50,859
小計	400,608
総計	808,608

年度内差引額 ￥-106,608 円

2. 残高報告

¥1,989,184 円

上記内容に異状ありません。

平成23年度奥平会会計係

濱田 秀

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

半澤 康司

平成24年度奥平会活動計画

1 活動内容

(1) 部活動支援

金銭的・人的支援を継続して実施するとともに、昨年度に引き続き少林寺拳法改革新体制移行に伴う指導を適切にする。(各人毎の本山との連絡・入金、休眠・考試との関連)

(2) 一般財団の実施する講習(道院長・支部長講習)への参加

(3) 横須賀・三浦ブロック活動への参加

近隣支部との合同練習(2ヶ月に1回)に積極的に参加(本山の目)する。

(4) 関東学生OB連合会活動への参加

懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。

(5) 校内活動

OBの部活動・練習参加に加え、OB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。

(6) 金銭支援

県大会(6月24日)、開祖生誕100周年記念全国大会(12月)の参加に対し金銭的支援をする。また、一般財団割当経費(昨年例;一律35,000円、拳士3,000円/1人)については、財団一律分(35,000円)を負担する。

(7) 杉本記念合同練習会(6月10日)での審判支援

2 活動に当たっての重点事項

(1) 新入部員獲得に関して指導をするとともに、金銭支援を行う。(金銭支援、勧誘活動支援、HP作成等)

(2) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。

特に将来的に防大に所在するOB顧問が増加する見込みも少ないことから、部外顧問制度を充実(学生時代の主将・副将等の優技者、任官後も練習を継続している者、全自支部の役員、元監督等、平成23年度には7名に依頼)して、学生の指導を有益なものにする。さらに、OB顧問以外の意欲のある教官を将来的に有段者に育てる等、顧問団の育成に着意する。

(3) 防大勤務OBの増加を要望する(陸・海・空各幕への働きかけ:22年度:寺田2尉。だが厳しい状況)。

(4) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

(5) 部誌の電子化初年度として業務・経費の効率化を図る。

3 部務の運営について

(1) 監督、顧問業務

現在研究科学生（津森・房野・脇田・宅島）を除き、職員は加藤先輩（#15）、濱田（#27）、寺田（#51）の3人である。当面寺田会員が監督を実施するが、定期異動を予測し適任者があれば適宜交代を予定する。

学生の技術指導等は出口1佐（#24）佐藤1佐（#24）、坂本1佐（#25）、相良2佐（#26）、米山2佐（#27）、吉武2佐（#31）、山口2佐（#32）、高取2佐（#37）の部外顧問をはじめ、近隣からの支援をもらう。

(2) 幹事業務

ア 総括業務

濱田会員

イ 庶務業務

- ・三浦ブロッカー濱田会員（副：宅島会員）
- ・神奈川県連－濱田会員
- ・全自衛隊－米山会員
- ・学生OB連合－米山会員

ウ 会計業務

宅島会員

エ 広報業務

房野会員

(3) 会計監査

検討中（半澤会員（20期：埼玉県在住）の交代を予定）

4 部の活動予定

頁16「平成24年度年間活動計画」参照

5 その他

(1) 開祖生誕100年記念全国大会への参加について

ア 実施日時：12月2日（日）

イ 実施場所：横浜国際プール

ウ 経費に関する事項：一般財団構成員としての支出、個人拳士としての支出

エ 参加要領

(2) 顧問への支援（平成23年度施行）について

24年度も、道院長・支部長研修費用等を含め、引き続き実施。

平成24年度奥平会予算計画

1 収入について

40期半ばの部員減少期、厳しいOB会費予算の状況を受けて12年度以来、一口3000円の特別会費を設定、お願いにこたえ、OB・OGの皆様の温かいご援助を受けてまいりました。これにより18年度には約2ヵ年分の活動費（約140万円）を上回る額を確保することができるようになり、当該年度をもって、特別会費の徴収を見合わせた予算となったことは33号（平成18年度版）でも申し述べたとおりです。

当面の間、24年度以降も卒業時の一時金による予算によりまかなうことになっております。因みに現在の部員数は、4学年12名、3学年12名、2学年15名、1学年25名となっており、24年度以降も終身OB会費による運営が可能で、今後も奥平会の本来の形式であった終身OB会費（卒業時の学生手当の1/2）による運営を追求して行きます。

2 支出について

24年度は開祖生誕100周年全国大会、少林寺拳法一般財団化・改革事業2年目を迎えるなど、大きな事業が予定されているほか、OB顧問団必要経費を如何にするか、という件については検討する余地があります。

3 24年度予算計画について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥1,989,184	各種大会支援	¥160,000
小計	¥1,989,184	合宿支援	¥15,000
OB会費	¥702,000	学生活動支援	¥60,000
		技術向上支援	¥200,000
利息	¥0	奥平会運営費	¥250,000
その他	¥0	OB顧問団必要経費	¥100,000
小計	¥0	開祖100周年関連支援	¥55,000
		部旗作成支援	13,000
総計	¥2,691,184	総計	¥853,000
残高（収入－支出）			¥1,838,184

※ 「開祖生誕100周年関連支援」事業は、一般財団費・全国大会・県大会支援をさす。

4 来年度以降の見通し

奥平会の運営経費は年間約70万円を必要としております。既にご承知の通り、収入は当該年度の卒業生の終身OB会費（5.4万円/人）によって賄われております。当面は終身OB会費による運営が可能です。

期別連絡網

1 趣 旨

会員名簿を維持するために、期別ごとに会員の情報を掌握していただく趣旨です。

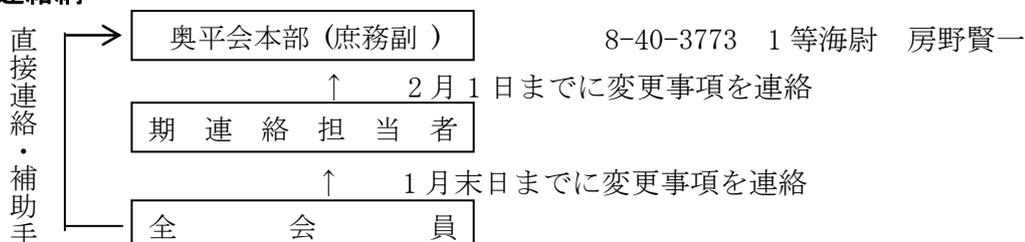
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおきます。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当者へ連絡し、変更事項を告げます（直接防衛大学校庶務に連絡することも可能）。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大庶務（今年度は副））に連絡する。期担当者の変更（交代・転出）についても防大庶務（副）に連絡します。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとします。この際同窓会本部との連携に留意します。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとします（再任を妨げるものではありません）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者 (24.6.1現在)

10	10	調整中		26F	池畠 暢也	浜松	42A	古賀 信之	市ヶ谷
11	11A	勝野 建朗	退職	27F	堀田 隆治	目黒	43A	廣瀬 繁	目黒
12	12A	衛藤 利治	退職	28A	湯浅 悟郎	東京	44A	渡邊 俊明	前川原
13	13A	調整中		29A	甲斐 正人	健軍	45A	八木 新	札幌
14	14A	清水 重周	退職	30A	福田 洋司	島松	46A	菊池 裕紀	目黒
15	15A	上杉 和壽	退職	31A	亀山 慎二	市ヶ谷	47A	矢野 健一	弘前
16	16A	富本 啓一	退職	32A	福重 毅尚	南恵庭	48A	对比地 貴之	目黒
17	17A	中尾 吉孝	退職	33N	町島 敏幸	市ヶ谷	49N	房野 賢一	防大
18	18F	笠原 久	退職	34A	松永 康則	市ヶ谷	50N	鳥居 悠希	大湊
19	19A	屋久 俊郎	退職	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	51A	加藤 僚	青森
20	20A	小林 実	退職	36A	藤岡 史生	市ヶ谷	52N	上田 佳裕	下総
21	21A	湖崎 隆	練馬	37N	高取 哲郎	横須賀	53A	磯畑 良太	山口
22	22A	松村 利宏	退職	38A	奇藤 浩	仙台	54A	坂口 雄幸	米子
23	23A	日高 政広	神町	39A	中村 公多朗	市ヶ谷	55A	尾上 真一	習志野

連絡事項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者が多くなってきています。(次頁に記載) 本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大奥平会本部庶務まで御連絡ください。

2 部誌の電子化

本年度から部誌の電子化が実施され、Webでの提供になります。細部につきましては、郵送によりお知らせしたとおりです。

なお、インターネット環境がない方に対しては、従来どおりの紙面での郵送を継続いたしますので、その旨をご連絡ください。

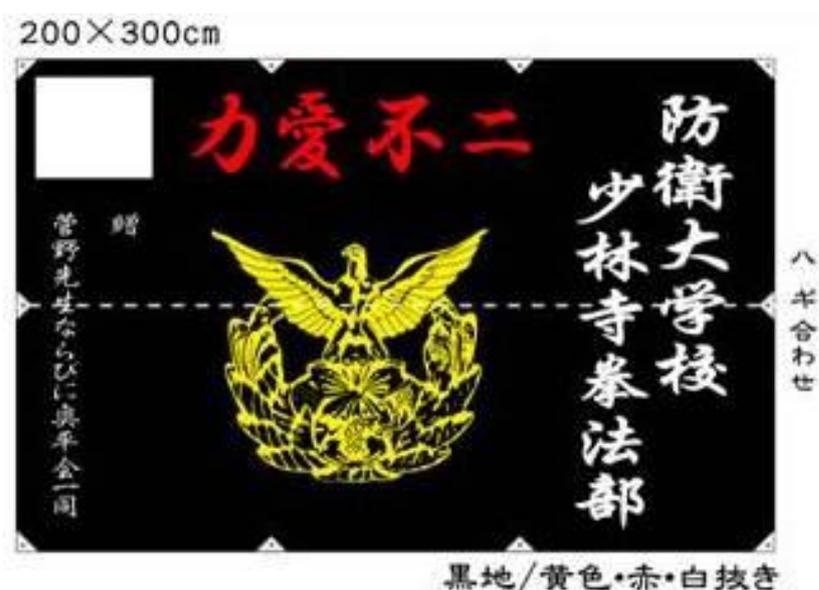
また、電子に伴い、Webに部誌をアップロードした際には、御提供していただいたメールアドレスに対して、ご連絡差し上げますので是非、ご覧になってください。

部誌掲載先

<http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/okuhira.html/bushi>

3 新しい部旗完成

6年間構想を温めてきたところですが、この度56期生(責任者:関戸・丹羽)により作成が完了いたしました。デザインにつきましては、以下のとおりです。名誉会員の菅野先生より、13万円を支援いただいております。この場をお借りして感謝申し上げます。



4 所属等不明者

期別	氏 名 (敬省略)
10	黒野 耐、清水 薫男、出田 弘一
14	清水 直正、斉藤 正精
15	古川 照久、安村 幸次、奥野 耕三、三嶋 利克、上杉 和壽、今村 修二
16	阿部 哲夫
17	久和 清幸
18	渡辺 義幸、岩渕 秀樹
19	園部 武典、三星 忠正
21	福岡 誠、村田 隆斉
22	野口 利保、吉岡 聖二
23	井口 義定、川添 一正
24	中村 健蔵
26	小野 長門、瀧沢 由則、中村 明弘、水野 伸彦、平野 勝、澤木 優輔
27	川村 治彦、馬場 政和、中里 巧、西山 利昭、蔵田 衛人、沢村 徹、高野 宗治
28	永井 大介、吉田 正人、畦地 勇、鶴見 耕市、日高 信行、西小路 謙、平島 一、 神山 隆、米田 健二
29	水上 義仁、青柳 光、浅川 玉樹、
30	林 宏幸、中森 雅美
31	蝦名 伸治
32	川崎 誠二、平田 雄嗣、福元 昌二、後藤 幸英、松尾 研志
33	池田 誠喜、久永 智、半澤 新吾、高橋 真一、西窪 純、田中 勝也
34	竹内 博忠、篠原 康一、富山 修、丹羽 満良、河田 成治
36	岩村 伝法、
37	吉田 文二、富原 大治、木下 治信
38	城戸 利彰
39	長濱 誠、井上 嘉史、野本 肇、中村 公多朗、達下 裕教、鳥越 渉、久保 敦
40	朽木 誠
41	吉村 裕樹、佐久間 博、小林 貴、曾我辺 信久
42	清水辺 大、土本 邦彦
43	梅原 航、松口 俊三、関 大吾
44	八尋 幸一
47	村重 亮、本田 一郎
48	飯沢 直人、廣神 敏
49	郡山 伸衛

5 創立 50 周年行事（平成 26 年度）の準備について

防大少林寺拳法部は平成 26 年度、創立 50 周年を迎えます。この記念すべき節目にあたり記念行事を実施して、これまでの部の歴史を振り返りその実績を称えますとともに、今後の部の更なる発展を期したいと考えております。来年度（平成 25 年度）は、準備年度となる予定です。記念祝賀会、記念誌発刊等の構想を 24 年度総会（平成 25 年 2 月頃）で諮る予定です。ご意見、ご支援等の問い合わせがございましたら、本部（副会長・総括幹事）まで、ご一報いただきますようお願いいたします。

6 本部連絡先（副会長・総括幹事）

防衛学教育学群国防論教育室

2 等陸佐 濱田 秀

専用線 8-40-3853

局 線 046-841-3810（内 3853）

7 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務（副）まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績、知りうる範囲で会員様の慶弔等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

全自衛隊支部の活動紹介

全自支部事務局

奥平会の会員におかれましては、防大卒業時に少林寺拳法の修行を止めてしまった方、勤務の都合で練習したくても止めざるを得なかった方、全自衛隊連盟の各支部で活動している方、一般の道院・支部に通って活動している方等、いろいろおられると思います。中には活動をしたくても、転属をする度に手続きの煩雑さから、活動を躊躇している方もおられると思います。

そのような状況の中で、自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されたところです。

下記の内容を読んでいただければ、その活動状況はご理解いただけると思います。軽易に少林寺拳法の活動が可能になりましたので、奥平会会員の皆様も是非又、道衣の袖に腕を通していただきたく、この場をお借りして紹介させていただきます。

1 設立の趣旨

各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、もって自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものである。全自衛隊支部に所属する場合の具体的な例として、

- (1) 部長が転勤及び退職等により、止むなく部の廃止や休止せざるを得なくなった少林寺拳法部員が活動継続する場合
- (2) 拳士が転勤等により、少林寺拳法部がない勤務地に異動して活動継続する場合
- (3) 拳士が頻繁な転勤等により、その都度、各少林寺拳法部への転籍ができない場合
- (4) その他、拳士の活動継続が困難な場合

2 活動の状況

- (1) 支部長兼事務局長 : 米山多佳志 (防大27期: 元監督・2等陸佐)
- (2) 副支部長 : 出口 潔 (防大24期: 1等空佐)
監 事 : 山口直人 (防大32期: 2等空佐)
- (3) 支部員: 支部長以下19名(24.4.1現在)
(防大少林寺拳法部出身者: 9名)
- (4) 支部所在地: 防衛省防衛研究所 (原則として支部長の所属場所)
- (5) 支部員の活動場所 : 14カ所(24.4.1現在)
- (6) 会費: 年会費10,000円 (本部年会費5,000円、支部年会費5,000円)
 - 入部、転籍の際、別途、袖章代等1,000円が必要
 - 本部年会費は、各拳士が直接本部へ納入

3 入部及び活動要領

(1) 入 部

ア 入部資格

原則として、全国の自衛隊拳士を対象とするが、

(ア) 少林寺拳法部を有しない自衛隊駐屯地等において勤務する拳士及びその家族
(当面の間、有段者のみ)

(イ) 所属道院支部を有しない自衛隊OB拳士

イ 入部要領

入部を希望する者は、まず、入部希望の旨を支部長（米山）に連絡し承認を得た後、入部手続き要領の説明を受け、少林寺拳法のWeb上にて各自で手続きを行う。

(2) 修練場所

原則として、各駐屯地等の施設を活用した修練とする。但し、駐屯地等の近隣に位置する道院支部での修練は、道院支部等の所属長に当部の活動趣旨について理解を求め、参加許可を受けて行う。（近隣道院支部との兼籍も可能）

(3) 支部の事務処理(事務局)

陸自・米山多佳志を支部長兼ねて事務局長とし、事務局を防衛省防衛研究所に設置する。（24. 4. 1以降、現在まで）

原則として、事務局の所在地は米山拳士の所属する勤務地とするが、転属等により、その都度、所在地を変更する場合がある。

(4) 定期連絡

各部員は原則として毎月末、各自の活動状況について支部長（事務局気付）に定期報告する。また事務局は各部員の定期報告に基づき毎月の参座状況を掌握する。

また部員の転勤等によって活動場所が変更になった場合は、速やかに事務局に報告する。各拳士からの連絡手段：電話、メール又はFAX等で実施。

(5) 部 費

ア 支部費は、当面の間、年間5,000円／人とする。

（この他に各拳士の年度本部登録費5,000円が必要）

イ 部費は毎年3月末までに徴収する。

(6) 会報少林寺拳法の配布

原則として連盟本部から事務局に全部員分の会報が一括送付されるため、事務処理上年間数回に分け、数ヶ月分まとめて部員に配布する。

(7) その他

当面の間、部員については有段者のみとする。新入門者及び級拳士は、技術指導の面から全自連盟所属の各少林寺拳法部へ所属するようしてもらいたい。

4 入部及び問い合わせ先

〒153-8648

東京都目黒区中目黒2丁目2-1

防衛省防衛研究所戦史研究センター 2等陸佐 米山多佳志

T E L : 03-5721-7005 (内6680)

F A X : 03-3713-0350 (直通)

専用線 : 8-67-6680 (FAX6554)

携帯電話 : 090-1267-1402 (taka741852@ezweb.ne.jp)

E m a i l : pony741@yahoo.co.jp (自宅)

yoneyama-tk@nids.go.jp (職場)

奥平会名誉会員名簿

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	高橋 信明	通信工学科 教授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
先生	神田 憲和	三多摩副道院長 准範士 7 段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
先生	頼 富 英 武	少工校顧問 准範士 6 段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
元部長	菅 野 等	元副校長	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6 丁目 34 番 1-411 TEL 045-786-5877

編集後記

57期 庶務係 朝鵜 悠太

合掌

立夏の候、ますますご清栄のことと存じ上げます。56期生が卒業し、59期生は Cutter 訓練をおえ、60期生30名を迎えた新体制で、気持ち新たに、部員一同日々修練しているしだいであります。

昨年度は見事に全日本学生大会最優秀賞を獲ることが出来ました。今年度もまた、全日本学生大会最優秀賞を目指して部員一人一人が気持ちをひとつにし、目標意識を高く持ち、一日一日の練習に全力で取り組んでおります。また今年度は団体演武だけでなく、組演武でも先輩方の築かれた輝かしい「防衛大学校」の名に傷をつけぬよう部員一丸となって最優秀を獲りにいく所存であります。

私ども57期も下級生と共に日々自己研鑽に励み、政権を中心として全部員が修練に励んでいきますので、先輩の皆様におかれましても、ますますのご指導、ご鞭撻のほどをよろしく願いたします。

最後になりましたが、今回部誌を作成するに当り、ご協力・ご指導をいただきました部長、監督をはじめとする関係者の方々に厚くお礼を申し上げまして、編集後記とさせていただきます。

結手

